

マルセイニュース 4月号

発行日 2017/4/21

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL.0146-22-5123

浦河に春が来たよー！

浦河の魅力を発信している観光協会が、ドローンを使って空撮した写真です。乗馬している人の姿がとても小さく見えますね。こんなに雄大な景色を持つ町で暮らしていることに、都会の人は驚くでしょうか。さあ！鮮やかな新緑のカーペットに変わるのはもうすぐです。今年も春が来ましたよ！



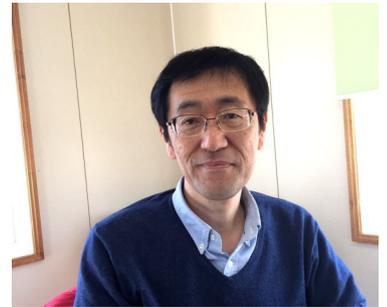
写真提供：浦河観光協会：中川真さん

5月3日・4日開催の今年の桜まつりは見逃せません！50周年記念の新しいイベントもたくさん用意されているそうです。「花」も「団子」も楽しみに出かけたいです。森林公園の草花も、もう、こんなに咲き揃っているそうです。見逃すのはもったいないですね。自然に恵まれた暮らしを楽しみに出かけましょう^^



かわいいですね～。苔の中から生えているのは行者ニンニク。エゾエンゴサクの青は美しいし、カタクリのピンクは可憐。バイケイソウの緑のみずみずしさも！

1、今年の桜まつり。東京で活躍している浦河出身の和菓子職人・白石学さんのワークショップが楽しみです。「ミニ春うに丼」も魅力ですね～。社長



株式会社マルセイ 第40期 「上半期」終了！

燃料屋の繁忙期も終わり、あっという間に今年も三分の一が過ぎようとしています。これからの夏季をどう取り組んでいこうかと、あらためて試算しながら後期スタートしていきます。

早いものでもう4月になり、会社も今期のちょうど半分が終わりまりました。今期の上期は残念ながら前年比で減益です。暖かい冬で灯油の数量が伸びなかったことが主たる原因で、これは当社だけではないさそうです。しかし減益となるととたんにソワソワするのが私の悪い癖で、考え方が急に近視眼的になつてしまいます。

これではいけません。こういふときこそと思ひ直し、尊敬する坂本光司さんの本を手にとつてみました。

『利益を追わなくなると、なぜ会社は儲かるか』

坂本先生は中小企業経営論の第一人者で、『日本でいちばん大切にしたい会社』などのベストセラーを生み出している方です。今回目を通したのは『利益を追わなくなる』、なぜ会社は儲かるかです。利益を増やしたいという動機でこの本を読むのもどうかと思うのですが、それでも十分に勉強になる本でした。

やっぱり市井にはすばらしい社長や店主さんたちがいるものです。世の中ではほぼ無名でも、ひたむきに仕事に取り組んでいる人たちにはたくさんいます。いえ、仕事に一途だからこそずっと無名ともいえるでしょう。利益を上げたいと願う経営者への坂本先生の助言は、以下に尽きます。

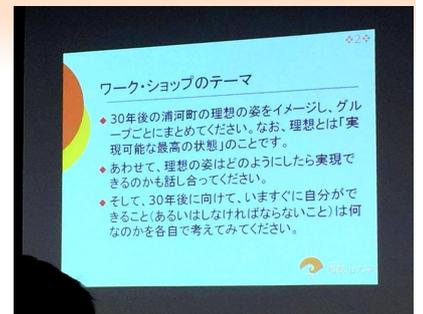
「まず従業員を最優先にしなさい。そしてお客様によるこぼれるよう努力しなさい。そして利益を地域に還元しなさい。そうやって会社の儲けは後回しにしたら、あなたの会社は(未永く)儲かるようになります。」

坂本先生の助言のキモは多分、この優先順位の順番を変えないことだとわたしは思いました。言うは易く行うは難し、です。ですがわたしは儲けたいので、この助言を実践してみたいと思います。というわけで残りの半期、頑張ります。

社長

30年後の、浦河町の理想の姿は？

浦河観光協会が主催する学習会に参加しました。短い時間内の「観光学」の講義でしたがとても興味深かったです。「観光」が私たちの暮らしや仕事とは無縁でないことがわかりました。「浦河といえば、〇〇！」と、一言で理解や認識をしてもらえること。それを「認知度」というそうです。「浦河といえば〇〇！」。このたった一言で、広く認知される町になったなら、「浦河？知らないなあ」と言われることも改善されるかもしれません。きっと、会社も同じですね。マルセイと言えば「任せて安心！」と認知されるのを目指します！



ワークショップに与えられたテーマがこの三つでした。

■30年後の浦河町の理想の姿をイメージし、グループごとにまとめて下さい。なお、理想とは「実現可能な最高の状態」のことです。

■あわせて、理想の姿はどのようしたら実現できるのかも話し合ってください。

■そして、30年後に向けて、いまずぐに自分ができること(あるいはしなければならぬこと)は何なのかを各自考えてみてください。

5つのグループに分かれ、それぞれのメンバーと一緒に考えました。最年少は高校生。年長者は当社の社長？：だったようです。30年後にはもうこの世にはいないかもしれない私たちですが、若い人たちと一緒に真剣に考えました。

どうぞ、このテーマに添って考えてみてください。30年後の理想の浦河をイメージして↓どうしたら実現できるのかを考え↓30年後に向けて、自分ができること、あるいはしなくてはならないことを考えてみる。

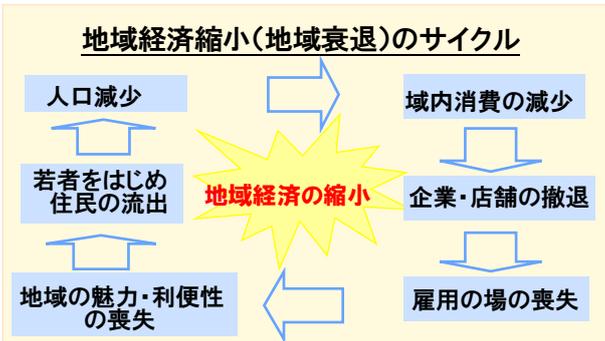
一人でも多くの人がこのことを共有して前向きに動き始めるだけで、何かきつと良い変化がおきそうです。このワークショップに参加してそう思いました。

「まちづくり」は「ひとづくり」。しかし、「まちづくり」だけでなく、「まちそだて」も必要。「まちそだて」は「ひとそだて」をしながら前提。「まちそだて」をしながら「まちづくり」を、「ひとそだて」は「ひとづかい」から。

「会社」に、言葉を置き換えて考えてみました。この先どんな会社を目指すのか、どういう仕事をしたのか。それはどうしたら実現できるのか。30年後に向けて大切にしたいこと。育てたいこと。認知される会社になるには？

どれもみんな、大切なのは自分たちで考えて、実現に向けてどのようにしていくか、それしかない。「観光学」から、そう学んだ気がしました。

マックス



圭佑くん！ 現場も、パソコンの事務仕事も どんどんチャレンジしています 灯油配送データの担当！

早出担当者の出勤時間は7時15分。小さな会社なので、みんなが現場も事務仕事も担当しています。

春を迎え、また新たにチャレンジしている圭佑くんの姿があります。新たに灯油の配送のパソコン入力を担当。エクセル、ワードその他もどんどん憶えて頼もしい！頑張っています！

お正月と日曜日を除くほとんど毎日、7時半にはゴミの収集運搬業務を開始しているマルセイです。冬道の運転は初めてだった圭佑くん。大きなゴミ収集車やタンクローリーの運転も無事に乗りこなしました。緊張する冬道の運転でしたね。お疲れさまでした。



どうぞ、お気軽にご相談下さい！

「暮らしのサポート」

春の異動シーズン。今年も引っ越しなど出る、家庭ゴミの収集運搬のご相談をいただきました。当社の暮らしのサポート事業をご利用いただき、ありがとうございます！

春になると気になるのが家の周りや物置の中、そして押入れの中の使わなくなったモノの数々。早く片付けてしまいたくても、なかなか自分では思うようにできないまま、「いつか」、「今年こそは」とそのままになってはいませんか？

お仕事をさせていただいたお客様から、「こんなにきれいになるなら、もっと早くにお願いすると良かった！」と喜んでいただいているサポート事業です。先ずはお気軽にご相談下さい。お役に立てます。



劣化したタンクの「油漏れ」を発見！

急いでタンク交換実施！

今月もタンク交換工事がありました。今月の場合は油漏れが見つかって、急いで交換した工事です。タイミング良く発見できて、大事に至らなくて良かったですね。古い灯油タンクの場合、経年劣化がないか、しっかり点検していこうと思います。



最近はずつかり、社長抜きの仕事が当たり前になっているマルセイです。この日のタンク交換も兄弟二人で担当です。それぞれ、得て不得手があってもそこは熟知の仲で、息もぴったりな二人に、「任せて安心！」と喜んでる社長です。

仕事中、お母さんからだけではなく、子どもからも声をかけられることが多いという恭平くん。相変わらず、実年齢よりかなり若く見られています。どれほど若く見られるかというところ… ばわふる日記を読んで下さいね。



チューリップも水仙も、日毎に背丈を伸ばしています。宿根草が次々と咲き始めて、うれしい季節を迎えました。

この春のばわふるさんの花壇は、ちよつどのんきかもしれませんね。昨年は3月末に咲き始めた宿根草のチオノドクサが、今年4月10日前後からでした。



マルセイにも春が来てますよ～

咲き始めた「ばわふるさんの花壇」



さて、ばわふるさんの花壇は毎年楽しみです。今年はどうな彩りとデザインでしょうか。やっぱり今年のメインカラーも大好きなピンクかなあ？ 野菜を植えたら怒られるかな…。こそり植えてもすぐに見つかりそうです。今年も植えたもん勝ちで植えてみましょう。(笑)





今年で半世紀！『桜まつり』が楽しみです

心待ちしていた春がやってきました。今年で50回目を迎える『浦河桜まつり』は、ゴールデンウィーク中の5月3・4日の開催です。初企画イベントもたくさんあるそうですよ。どうか、お天気に恵まれますように♪ 夜桜のライトアップも楽しみです！

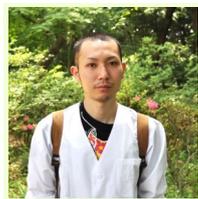


「優駿さくらロード」と名付けられた浦河の桜並木。およそ1千本の桜の「さくらトンネル」が3kmも続きます。人気がある「百年桜」の樹は、なんと全国でも2番目の幹周りを誇るエゾヤマザクラなんですって！カシワやカスミザクラなど、道内トップクラスの数と規模を誇れるほどの樹木を保有。世界でも珍しい白い実のナナカマドの木もあるそうです。私たちが知らない財産が、浦河にはまだまだありそうです。

楽しみな新企画が たくさんあります！

道内の人気雑誌でも紹介されています。集客が期待される今年の桜まつりは、50周年記念の初イベントが多数用意されているようです。中でも、数量限定の「ミニ春うに丼」と「穀付き春うに」の販売は人気がありそうです。桜スイーツ・フエスタも気になります。中でも楽しみになっているのが浦河町出身の和菓子職人・白石学さん（東京在住）による、和菓子作りのワークショップです。

傷んだ樹木を守ろうと樹木医の金田正弘先生（苦小牧在住）にご指導いただいたから、年を重ねるごとに元気になっていくそうです。今年の咲き具合も楽しみです。



白石学さん
(浦河高校卒業)
季節を表現する上和生界に感動し、その道を進むことに。様々な

方々とイベントを組み、和菓子の実演・ワークショップ・和菓子の提供をしています。現在、東京の「HIGASHIYA GINZA」にて和菓子職人として研鑽を積んでいます。

実は白石さんもそのお一人です。その時の出逢いが縁で今年の桜まつりでのワークショップが実現。「自分が育った町でのワークショップは楽しみです。来場される方に楽しんでいただけるように頑張ります！」と張り切っている白石さん。白石さんの和菓子との出会いも楽しみにすね♪



エゾヤマザクラの練り切り菓子

4年前、最初の浦河町地域おこし協力隊のメンバーだった武藤さん、中川さんたちが『浦河ウィーク』という催しを実施。札幌の各所で浦河町を熱烈PRしました。各会場には浦河出身の人はもちろん、浦河に住んでいたことがある浦河ファンの方々が詰め、とてもたくさんの方が足を運んでくれました。

「観光学のススメ」観光学ってなんだろう？



『第8回 観光ワーキンググループ会議』

3月17日(金) 浦河町役場 集団指導室



「観光」に力を注ぐにあたり大切なことのひとつは人が育つこと。この一年、観光協会が主体となって続けられた“学びの場”には、「観光ワーキンググループ」と称する仲間たちとのうれしい出会いと、共に学ぶ楽しさがありました。

短い時間内にワークショップも「大変に質が高くて、正直びっくりしました！」と出口教授からお褒めの言葉もいただいた勉強会でしたが、高校生の参加も大きな要因だったと思います。現在取り組みが進行中の『うらふえす』をはじめ、町内で色々な交流の場や学び合う機会が生まれているのはうれしいですね。

「観光学のススメ」観光学って何だろう？というタイトルの講義でしたが出口教授と竹林准教授お二人の軽妙な掛け合いは楽しく、まるで漫才のよう。その実、とても興味深い座学でもっとお聞きしたかったです。夜の集まりにもかかわらず5人の高校生をはじめ、世代や業種も様々な方々と一緒に勉強できる機会をいただき感謝でした。

3月17日。観光協会主催の観光ワーキンググループ会議に参加しました。私が参加したのはこれで3回目です。今回は年度の締めくくりということもあり、メンバーによる視察研修報告の他に、和歌山大学の観光学部教授と助教授による特別講義がありました。



ワークショップ風景です。どのグループにも高校生が加わっていたのが良かったです。



グループを代表して高校生が発表。参加者みんなが集中した勉強会は、時間があっという間に過ぎました。

「観光って何だと思われませんか？」という出口教授の問いかけからスタート。観光学の視点から見た「観光曼陀羅図」という図も紹介されました。観光って・つまりは色々？人によっても場所によっても違い、観光施設だけでなく、交通・宿泊・飲食・土産・物販購入なども観光の要素となり、これらを組み合わせた行為を「観光」と言うそうです。実は全ての事が観光活動に含まれるのですね。

魅力的な観光に“おいしいものは欠かせません。でも、思い出に残るような「観光」の中で、食の他に魅力的な要素は何でしょう？人だったりモノだったり、場所や風景だったり：確かに色々ですね。人は楽しいところにやってくると思います。この日のお話を聞いて、私たちの町の観光にとって、私たち自身がここでどんな風に楽しみながら暮らしているか、どう豊かに暮らしているかということがとても大切なことなのかなあ・と改めて思いました。

人が集まるのは 楽しいところ



子どもから大人まで
たくさんの町民に参加していただける
高校生「ちーむU」の企画が続々！



浦高写真部「は旧えびす湯さんで写真展」

うらフェス 高校生ちーむU企画

さんかくの布で
浜町の賑わいを作ろうパーティー

にちじ 4/23日 5/14日 13:00~17:00
ばしょ MIO イベントスペース **さんかくりょう**

ミニ四駆 顔出しパネル作り わたあめ作り

6/4に開催される「うらフェス」当日に浜町を飾るフラッグコーナード(さんかくの布を繋いだ飾り)を高校生と一緒に作りませんか？
作業は簡単なものから用意してありますので、小学生から大人まで誰でも参加できます！顔出しパネルを作ってくれる方も大募集！！
「ミニ四駆コーナー」や「わたあめ作り体験」もありますので、ご家族みんなで遊びに来てください！

もって来てほしい物
・えんぴつ ・はさみ ・針と糸
・縫わない布 ・着なくなった服
※お断りなさいのサイズにして取り寄せます

古着・古布回収BOX設置場所
浦河町役場 図書館 東馬公園
コープ東町店 秋快Aコープ
パセオ 大黒屋 カブエツツシュ

（協賛）
うらフェス実行委員会 メール: urafes@urafes.com TEL: 011-749-7122 www.urafes.com
浦河町 広報課 メール: urafes@urafes.com TEL: 011-749-7059-0494



浦高美術部が、海で拾った漂着物を利用して
募金箱を製作しました。浜町を中心とした
店舗に、これから設置されます。



空き地や駐車場の使用許可も、「真ん中で協
力するよ!」という方ばかりです。感謝～!



資金集めの「手作り募金箱」



「うらフェスPR映像」製作のメンバー

6月4日(日) 10時～17時
うらフェスマーケット&ギャラリー&飲食

歩行者天国の浜町通りには、たくさんのお店が並び、町の人が出店するいろいろなお店が登場。ハンドメイド雑貨やアクセサリー、布草履、フェルトキーやアイシングクッキーの他にフリーマーケットもあり。まだまだ販売の出店は増えそう。もちろん飲食出店もありますよ、お楽しみに！

銭湯だったえびす湯さんを会場に、浦高写真部が写真展を。フルーツの村山さんだった店舗には子どもたちが喜びそうな遊び場が登場しそうです。そして、体験コーナーは盛りだくさん！木工雑貨作りや盆栽の苔玉作り体験、羊毛紡ぎ体験の他、なかなかできない体験がいっぱい揃います！

最近人気の「苔玉のワー
クショップ」もあります！

「浦河盆栽同好会」も出店されます^^

札幌国際芸術祭2017連携事業

うらフェス

浦河町民参加型
芸術文化フェスティバル

URAFES AT
URAKAWA
HOKKAIDO

うらフェス映画祭
3・4日
映画館大黒屋
1,200円/席 2,500円/全席(税込)

うらフェスマーケット&ギャラリー
4日 10:00~17:00
浦河町役場 イベントスペース

うらフェス音楽祭
4日 18:00~20:00
浦河町総合文化会館 1F文化ホール

2017.6.3(土)・4(日)

うらフェス実行委員会
urafes.com
urafes@urafes.com

6月3日(土)・4日(日)
うらフェス映画祭・映画館大黒屋

『ホドロフスキーのDUNE』 監督 フランク・パヴィツチ
『あしたの家族』 原案・撮影・監督 廣末哲万 脚本 高橋泉
『現代アニメーション特集』 ノンナラティブ作品中心に8本ほど

都会の映画館でもなかなか見ることができない映画を浦河で上映！
(近日、チケット販売開始)

あしたの家族

「浜町ストリートバンド」は毎週日曜に練習中です！
5月20日・21日は、大友良英さんと一緒に練習日です！

6月4日(日) 18時～20時
うらフェス音楽祭
文化会館大ホール
(近日、チケット販売開始)

「浜町ストリートバンド」が演奏しながら通りを練り歩きますよ。特設ステージでは、フォークソングやバンド演奏など、浦河の音楽好きによる演奏があります。

ファイナレは、文化会館で行われるコンサート。「浜町ストリートバンド」がプロの皆さんと一緒に演奏します。「あまちゃん」のテーマ曲で知られる大友良英さんやテニスコートといったビッグゲスト。ベジスタの立花泰彦さん率いるTKO。ひがし町パーカパッションアンサンブル。さらには浦河アイヌ文化保存会。みんなでセッションします！

6月4日(日) 10時～17時
「浜町ストリートバンド」・歩行者天国
「ステージライブ」・浜町通り特設ステージ

「浦河らしく、楽しく。遠くに日高山脈が見える海辺の小さな町の漁港のすぐ横、浜町通りで、町の人たちが楽しく音楽や映画を楽しんでいる。そんな様子を浦高の生徒さんにも手伝ってもらってイラストにしたポスターです。テーマカラーは黄色とブルー。日高のうららかな光を黄色、海の色をブルーで表しました。

デザイナー 小野寺千穂

馬産地ならではの企画！
JRAさん、浦河町乗馬公園さんのご協力で、馬の魅力にも触れられます。

6月4日(日)
ポニー馬車運行

第45回 地域デザインカフェのご案内
「うらフェス、今こんな感じですよ！」
4月27日(木) 東町ふれあい会館

参加費 1,000円(軽食代を含んでいます)
「うらフェス」進行状況報告 19時～20時
食事をしながら参加者で交流タイム
20時～21時

うらフェスが今どんな感じで進んでいるのかご紹介いたします。フェス当日までどんな風にうらフェスを楽しんで作っていくか、軽く飲み食べしながら皆さんとお話したいと思っています。お気軽にご参加ください。

実行委員です

最近読んだ本の中より…



『ルポトランプ王国 ―もう一つのアメリカを行く』

かなりリゆういち

金成隆一 著 (1976) 岩波新書

話しぶりから彼が、これまで真剣に働いてきたことを誇りにしていることが伝わってきた。真面目に働き工場長になっても期待したような暮らしは実現しなかった。妻のタニエルが警備員や飲食店に働きに出て、共稼ぎでやっと暮らしてこられたという。「アメリカンドリームはもうない。必死に働いてきた私が32年後の今も中流の下の暮らしなのですから」(本文より)



現地発。怪物を支持してしまふ米國とは何が...

こう語るのには、南部の州で飛行機部品の工場で働いてきた白人男性です。著者はアメリカ中を走り回り、トランプがまさかの勝利を本選でおさめる一年前から支持者へのインタビューを積み重ねてきました。そのほとんどが、かつては中流(年収2千万がひとつの基準)に属していた白人の人々です。著者は本書にこのようにも記しています。

アメリカンドリームは死んでいた

トランプ王国の支持者の間では、明らかにアメリカンドリームが死んでいた。私が「アメリカンドリームを実現できそうですか?」と聞くと、多くのトランプ支持者は力なく首を横に振った。

さびれた街のバーでは、「何を今さら」「無意味な質問をするな」と不愉快に思う労働者もいた。酷な質問になっているのだ。(本文より)

ラストベルト(錆びた地帯)と呼ばれるかつては繁栄を謳歌していた自動車産業などの工場地帯、あるいは中西部・南部の過疎地の人々の声を著者はひたすら聞き続けます。そこには、著者自身が暮らす大都市ニューヨークの人々が知らないだろう感情がありました。それは見捨てられようとしている人の怒りです。著者がニューヨークから来たと分かっただけで、あなたはリベラルか、と怒り出した女性もいました。本書を読んでいると、想像している以上の深い断絶がアメリカのなかにあることがわかります。

トランプには女性蔑視の発言が多々ありますが、だからといって女性がみんなヒラリーに投票したわけではありません。なかでもヒラリーの、「トランプ支持者はみじめな人々」という失言は大きな反感を招きました。たとえ怒りに震えながら次のように話す年輩の女性がいます。

同胞(ほらから)を英語で何というのかわかりませぬ。ブラザー(俺たち兄弟!)って感じでしようか。それがアメリカでは崩壊し続けているでしょう。金を稼ぐ能力と権威を持つ人間や地域と、そうでない者の間に、ありありとした線が引かれていて、「お前たちは金食い虫の田舎者だ、俺たちと同じ国民だと思ふなよ」と言われているような屈辱と怒り。それが地方の人たちにトランプを選ばせた大きな理由だったのだと本書を読んでわかりました。トランプ自身は裕福な家に生まれ、日頃の言動からも庶民を大切にしている人々とはとても思えません。なのに支持された、というこの皮肉。本書を読んでも今後のアメリカが、私には予想がつかせません。

社長

国民の中にある 深刻な断絶

マルセイニュースの読者で毎月欠かさず具体的な感想を寄せてくださる横浜在住のSさんは映画監督で雑誌の編集もしていた人生の先輩です。そのSさんから届いた先月号の感想の中からご紹介させていただきます。

先月号でいちばん印象的な言葉は、「ソムリエがやってきた!」の小松さんの言葉。「作業」と「仕事」のことでした。わたしが作ったフレンチレストランの記録映画に登場していたシェフの言葉を思い出しました。ベテランのシェフは若い料理人たちに、口をすっぱくして言うていました。「作業じゃないんだ! ちゃんと仕事をしなぐちゃ!」と。映画の編集もそうだけど、作業じゃないんですよ! 仕事をしなぐちゃあ!

「仕事」を「作業」としているときは、仕事は楽しくない

毎月これでもいいのかな:と思いながら、とにかく締め切りに間に合わせて編集しているマルセイニュース。素人のおぼちゃん手探りの編集だからこまでです。仕方がない…。そんな中でも、今月はこを伝えたい!と編集する中で思いがあります。先月号は小松さんの言葉が正にそれでした。それが伝わったことにホッとし、そして、とてもうれしかったです。

地域デザインカフェで話してくれた小松さんのこの言葉は、今もずしんと心にあって、現実の色々なことに置き換えながら大切にしています。マルセイニュースの編集作業も、この気持ちで取り組んでいきたいと思えます。

町の教育委員会の人が寄稿してくれるのですから、すごいですね! すばらしいですね! 驚きました。正直のところ、よくも原稿を引き受けてくれましたね。

町の職員が寄稿してくれたことへの驚きについては、本当にその通りです! こんなことが実現できてしまうことが、浦河の良さであり魅力でもあるのでしょうか。毎月発行を続けられているのも、そのおかげです。応援と協力をしてくれるみなさん、いつもありがとうございます!



マック

「作業」と「仕事」



片栗粉が多かったので、モチっとした感じになったけど、問題なくおいしかったです！

フライパンひとつで！  ガスでおいしくクッキング

薄切り肉のあっさり酢豚

薄切りの豚肉を甘酢でからめるだけ。簡単でおいしい酢豚の完成です！黒酢のうま味と最後にたっぷり振りかける“すりごま”の香ばしさがポイント♪さっと茹でてから調理する豚肉もやわらかくて、しかもヘルシー？ たっぷりの白髪ねぎと一緒に食べるとよりおいしさが増しますよー ^^



●材料（4人前）

- 豚薄切り肉 300g
- 片栗粉 大さじ1/2

- 甘酢
 - 黒酢 大さじ3
 - 砂糖 大さじ1と1/3
 - しょうゆ 小さじ1
 - 塩 小さじ1/5
 - 酒 大さじ1

- 白すりごま 大さじ1
- パセリのみじん切り
- 白髪ねぎ 10cm分程度



●作り方（参照 ウー・ウエンの『黒酢でおかず』）

- 1、豚肉はさっとゆでて水気を切り、片栗粉をまぶしておきます。
- 2、フライパンに甘酢の材料を加えて中火にかけ、煮立ったら1の豚肉を加えてからめ、白ごまを振ります。
- 3、器に盛り付け、パセリをふって白髪ねぎをのせて完成！



白髪ねぎ？
どれどれ、おれが切ってみるか？
あれ？これ、細く切れないぞ・・・



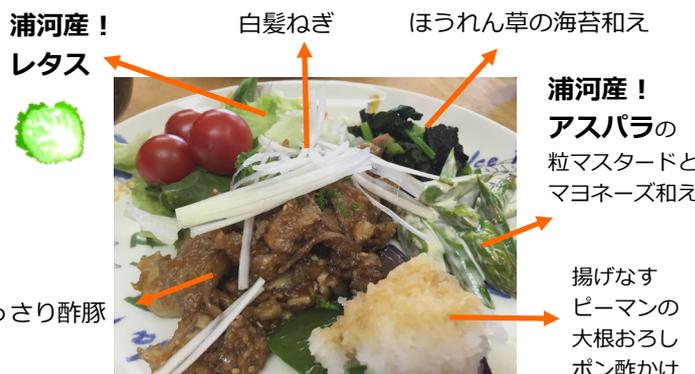
さてさて。写真には写っていませんが、ユートラインの村下社長と古森くんも加わって総勢9名の賑やかなランチでした。（この二人の評価も3.0と高得点をマーク！）

5合のご飯と味噌汁、レシピよりも大幅に増量したお肉で作った「薄切り肉のあっさり酢豚」も、みんなきれいに完食！圭佑くん、ごちそうさま♪ 大変おもしろうございました！

いつもこんな風に食べているわけではないので、大勢でのランチは久しぶりでした。みんなで囲む食卓はやっぱりいいですね～。この風景を紹介しているからかな？「いいよね～」とか、「いちど仲間に加えて欲しいなあ」といった声が度々かかります。そうそう。お客様の中で、「私が作ってみたい！」という方がいたらご連絡下さい！ご登場をお願いするかもしれません。でも！大切なのは“ガスでクッキング”ですよ～。笑間違っても、電子レンジで調理するレシピをマルセイに持ち込んではいけません。「ガス！」ですからね～。



試食した人	今日の料理は★いくつ？（最高★3個）
社長 (2.7)	★★★ おれが切った「白髪ねぎ」が減点分。太すぎて食感が今ひとつでした。味はおいしかったよ！
マックス (2.9)	★★★ ごめーん！片栗粉が多すぎたのは私が原因です～！でも、やっぱり黒酢はおいしい^^
ばわふる (3.0) ↓ (2.8)	★★★ 「すっぱいけど今日は3.0！」と判定した後・・・ 食べ終わる頃になると「やっぱり2.8！」と変更。酸っぱいのは、ニオイも含めて苦手です。笑
恭平くん (3.0)	★★★ 黒酢がおいしいですね^^（と、超大盛り～♪）
武藤夫妻 (3.0)	★★★ ボリューム満点！豪華なランチご馳走様です～
圭佑くん (2.8)	★★★ おいしいけど、もう少しだけ油が足りなかったかな・・・。（と、残念そうでしたが・・・おいしかったよ～^^）



社長のちよつと長い「コラム」

『人生、フルーツ』

先月号の表紙でご紹介した『浦河フオーク音楽祭2017』盛会だったようでお祝い申し上げます。歌は良いですよ。十代の多感な時期に口ずさんだ歌、街で流れていた歌ならなおさらです。わたしもこのコラムで、中学生の時の洋楽との出会いを何度か書きましたが、日本のフオークソングも好きでした。岡林信康、高田渡、遠藤賢司、六文銭、あがた森魚、吉田拓郎、泉谷しげる、古井戸とよく聴きました。先日亡くなられた加川良さんも好きでしたね。とくに中津川のライブの「教訓1」。加川さんは数年前に大黒座でも歌いました。

中でも好きな歌手のひとつが、友部正人さんです。最初に聴いたのは「一本道」という歌。かつこいい歌だなあといい、LPレコードを買いました。つぎに買った『どうして旅に出なかつたんだ』は、文字通りすり切れるほど聴き、以降、現在までずっと聴き続けているファンの一入です。北海道にちなんだ歌もいくつか書いていて、「小樽運河発力ナダ行き船」という大好きな歌があるのですが、小樽に数度しか行ったことがないわたしに小樽ってどうだよなあと思わせる曲です。サロマ湖の歌もそう。友部さんは、たぶん今でも一番よく聴いている日本人の歌手です。



四年前になるでしょうか。たくさんあった借入金もなくなり、月末の支払いに苦しむ悪夢も見なくなつた頃に、どこか遠く町を離れた場所で大黒に聴きたい歌を聴きたいなあ、と無性に思いました。アメ

リカに住んでいる友部さんのライブが札幌であることがわかり、平日だけど休みをとって聴きに行こうと決めました。しかし義父の癌の再発などがあり、コンサート行きは中止。まあ次があるさと、さほど残念でもありませんでした。二年前のライブも、やはり都合がつかずあきらめました。さすがにこのときは上手いかないなあと、残念に思いました。

先月のことです。連休をもらい、札幌へと向かっている土曜日の朝。スマホを見ていた妻が言ったのです。「昨日の夜、札幌で友部のライブあったんだね。」絶句しました。昨夜は確実に行けたのに。しばらくネットでもチェックしてなかったと悔いても、もう遅い。縁がないんだなあ、と連休初日にして沈んだ気持ちで札幌にたどり着きました。

お昼ご飯を食べ、気を取り直して映画を見ることに決めました。いつものように夫婦制でチケットを買い、紙コップのコーヒーマグを一つ持ち、街場の映画館の広くはないロビーのベンチに腰を下ろして入れ替えを待ちました。そのとき隣の妻がわたしの袖を強く引いたのです。「友部だ！」。はあ？と入り口に目をやると、友部正人さんが歩いてくるではありませんか。そして館主の方に「きのうはどうもありがとう。」と話しかけました。あの間違えようのない声で。

しばらくすると、じゃあと言って友部さんは去りました。私たちが館内に入って並んで座り「良いことあったね」と話しました。そして、この日選んだ映画『人生フルーツ』を見知らぬ人たちと一緒に観ました。人生のほとんどの何でもない日の繰り返しですね。ただけど丁寧な生きれば、いつか自分も周りも果実が実るようにご褒美がある。



さのばわふる日記



今月は、恭平くんキョウちゃんのおはなし…。灯油配送をしていた時に小学生の子に声をかけられ

小「うわ〜ガソリンの人みたいだ〜。」

恭「灯油だよ。」

小「若く見えるけど何歳なの？」

恭「二十九歳だよ。」

小「え〜二十歳過ぎてるんだ〜。スゲー！でも顔若く見える〜。十八歳くらいかと思った」

恭「よく言われるよ。」

童顔のキョウちゃん。小学生の子にも若く見られたと、照れ笑いしながら話してくれました。お客様からも「高校を卒業したばかりかと思った。」と言われたり、すでに二十歳を過ぎていたにもかかわらず、喫煙していたら私服の刑事に職務質問をされた経験もあり。免許証を見せると刑事は直謝りしたそうです。

いいな〜。若く見られるなんて、私からしたら羨ましい〜。そんなキョウちゃんも来月の誕生日で三十歳。確かに三十歳には見えませんが、キョウちゃんのお誕生日には、三十路祝いにはホルルのケーキにしようかな〜。おまけで社長も誕生日だし〜。

本日は社長の還暦祝いをしようと思っていたけど、数え年にするのは止めて、満年齢の来年、お祝いしますよ〜。その時は、素敵な写真を掲載しますので、皆様お楽しみに〜♪

マックスさんも繰り上げで一緒に夫婦還暦にします。

素敵な夫婦写真を撮影したい方は、来年募集します。

では是非、ご参加下さいね。さてさて、どんな還暦祝いにしようかな〜♪一年がかりで計画を立ててなくて

は…♪社長夫婦が私からの愛を感じられるお祝いになりますよ。

追伸… あれだけ笑いにされたのに危うく五回目を記録しそうになつた人…マックスさん。

おはなの??

おはなの??



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3500部
 【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com
 【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください
 〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3
 TEL 0146-22-5123



発行 株式会社マルセイ
 灯油・プロパンガス販売・機器修理
 廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業
 夏季期間(4月~9月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00 土曜3:00